

# 開校記念日にあたり

宮城県古川黎明中学校・高等学校  
校長 小川 典昭

本日4月17日は、本校の前身である『古川女子高等学校』の100回目の開校記念日にあたります。もちろん、本校の開校は平成17年4月1日ですから、現在の開校記念日は4月1日ですが、今日一日は、「故（ふる）きを温（たず）ね新しきを知る（＝温故知新）」との諺のとおり、改めて100年の長きにわたって生徒と教職員とが共に培ってきた本校の基本精神を尋ね、古川黎明中学校・高等学校としてどのように伝統を継承発展させていくべきか考える日としてもらいたいと思います。

皆さんが学ぶここ古川黎明中学校・高等学校は、大正9年4月17日に宮城県志田郡立古川高等女学校として産声を上げました。翌10年には県に移管され宮城県古川高等女学校と改称、さらに11年3月には現在地に新校舎が落成しました。当時としては最新式の校舎で、生徒も職員も誇りに思うすばらしいものだったと伝えられています。

開校当時、今ではどこの学校にもある校歌・校訓はなく、あったのは羅紗（ラシャ）地を梅の形に切り取った校章のみでした。梅は、困難を冒（おか）して生き抜く雄々しさと汚（けが）れのない乙女の姿を象徴しますが、同時に本校をも象徴するものだったのです。この『白梅』の精神は、昭和4年に制定された校歌の一番から四番までの歌詞に歌い込まれ、さらに戦後、「白梅賦（しらうめのふ）」という詩文を生みだしました。これは、梅の姿や在り方になぞらえて、雄々しさ、気高さ、清楚など、本校生が目指すべき理想像を詠んだものです。

平成17年、本校が新しく生まれ変わる折、旧校歌の一番と三番をもって新校歌とし、また、『白梅』の精神を「清楚」「精励」「至誠」から「尚志（しょうし）」（志を高く持つこと）・「至誠」（極めて誠実なこと）・「精励」（学業などに努め励むこと）と改め校訓とし、「白梅賦（しらうめのふ）」を「はくばいふ」と言い習わすこととしました。

本校生には、梅が冬の寒さに耐えて雄々しく花開くように、目指すべき夢や希望を高く掲げその実現のためにはどのような苦勞も厭（いと）わない人間、また、梅が、驕（おご）らず争わず咲くように、誠実であり、誰に対しても真心を持って接する人間であってほしいと思います。

白 梅 賦 （はくばいふ）  
苦寒風雪ををかしてひらき  
争はずして  
百花のさきがけをなす  
枝頭おごらず清楚のよそほひ  
芳香おのづから  
四辺にただよふ